

現代日本論概論

現代日本における職業

田中重人 (東北大学文学部准教授)

2年生対象：2016年度後期(4セメスタ) <火2>文学部第2講義室

1 『講義概要』記載内容

- ◆ 講義題目：現代日本における職業
- ◆ 到達目標：現代日本社会における職業と労働に関する諸問題を理解する
- ◆ 授業内容・目的・方法：職業・労働について、社会学を中心に、経済学・経営学・法学などにおけるとらえかたを概観したうえで、現代日本社会における問題について考えていきます。トピックとしては、労働統計の読みかた、雇用をめぐる法と政策、外部労働市場と内部労働市場、社会階層と社会移動、ジェンダーと労働などをとりあげます。授業においては、およそ2回に1回の割合で、これらのトピックに関連したテーマを設定して、授業時間内に作文を完成させる課題を課します。また、法律や統計などの資料を探索・解釈する宿題を課すこともあります。
- ◇ 教科書：なし
- ◇ 参考書：下記参照
- ◇ 成績評価の方法：授業中の課題と宿題によって評価する。
- ◇ 備考：受講者は、3セメスタ開講の現代日本論概論「現代日本における家族」を履修しているか、それと同等の知識を習得済みであることが望ましい。

2 授業の概要 (予定)

- (1) イントロダクション [10/4]
- (2) 第1講 労働統計(1) さまざまな働きかた [10/11]
- (3) 第2講 労働統計(2) [10/18]
- (4) 第3講 雇用をめぐる法と政策(1) [10/25]
- (5) 第4講 雇用をめぐる法と政策(2) [11/1]
- (6) 第5講 外部労働市場と内部労働市場 [11/8]
- (7) 第6講 企業の人事管理と労働者のキャリア [11/15]
- (8) 前回までの復習と進捗確認 [11/22]
- (9) 第7講 社会階層と職業 [11/29]
- (10) 第8講 社会移動と職業・教育 [12/6]
- (11) 第9講 ジェンダーと労働 [12/13]
- (12) 第10講 社会的不平等と職業 [12/20]
- (13) 進捗確認と課題再提出 [1/10]
- (14) 課題返却と講評 [1/17]
- (15) 授業全体のまとめ [1/24]

※ []内の日付は、学期前のおおよその計画をあらわしているが、実際の授業の進行状況によって前後にずれることがある。

3 参考書

- 厚生労働省 (2016) 『知って役立つ労働法』 (2016年4月) <http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudouzenpan/roudouhou/>. 【「法と政策」の回までに読んでおくこと】
- 労働政策研究・研修機構 (2010) 「特集:初学者に語る労働問題」『日本労働研究雑誌』597 <<http://www.jil.go.jp/institute/zassi/backnumber/2010/04/>>. 【「法と政策」「労働市場」の回で一部の論文を使用】
- 犬塚先 (編)(2003) 『新しい産業社会学』 (改訂版) 有斐閣. 【「階層」の回で使用】
- 宮本太郎 (2009) 『生活保障』 岩波書店. 【「階層」「ジェンダー」の回の理解に有用】
- 嵩さやか・田中重人 (編)(2007) 『雇用・社会保障とジェンダー』 東北大学出版会. 【「ジェンダー」の回の理解に有用】

4 授業中の課題について

およそ2回に1回の割合で、授業時間内に課題を課す。その日の授業終了時に提出、次回に返却。内容や形式に問題がある場合は、書き直しを求めることがある。この課題遂行のため、携帯用通信機器や電子辞書の持ち込みを推奨。

返却した授業時間内課題は、捨てずに保存しておくこと。期末試験の日にまとめて再度提出。

なお、授業時間内の課題とは別に、宿題を出すこともある。この宿題も成績評価の対象となる。

5 進度確認について

進度を確認するための (大きめの) 課題を2度おこないます。

- 11/22: 範囲はその直前までの授業でとりあげた内容すべて。何でも参照可 (電子機器類を除く)。
- 1/10: 範囲は授業全体。自筆メモ (A4用紙1枚) のみ参照可。

6 次回までの宿題

「労働力調査」について、つぎの項目を図書館の経済統計コーナー、2号館雑誌書架、またはインターネット「政府統計の総合窓口」<<http://www.e-stat.go.jp>> で調べ、A4用紙にまとめて次回授業時に提出

- (1) 1982年および2012年 (それぞれの年平均) について、15歳以上人口、労働力人口、労働力人口比率、完全失業者数、完全失業率
- (2) これら2年次それぞれの報告書の解説を読み、調査方法のポイントをまとめる。また、調査方法がどのように変わったかをまとめる。
- (3) これらの項目をどのような手順で調べたか。また調べる上で苦労した点。

7 講師連絡先

田中重人 (東北大学文学部日本語教育学研究室)

〒980-8576: 仙台市青葉区川内27-1 文学部・法学部合同研究棟2F

E-mail: tanakas2013@tsigeto.info

Homepage: <http://www.sal.tohoku.ac.jp/~tsigeto/welcomej.html>

Blog: <http://b.tsigeto.info/school>

オフィス・アワーは定めていない。質問等がある場合はあらかじめ適当な時間に予約をとること。受講者への連絡は、基本的に、授業においてまたは文学部2F教務係前の掲示板、学務情報システムによる。ただし、休講などで緊急を要する連絡は、田中の個人ブログ (School カテゴリの記事) に掲載することがある。 <http://www.sal.tohoku.ac.jp/~tsigeto/newsj.html> を参照。

年 月 日

現代日本論概論「現代日本における職業」 (田中重人)

受講登録フォーム

氏名：

学年：

学生番号：

所属 (文学部日本語教育学専修以外の場合)：

職業・労働・雇用などに関して興味のあること：

授業に関する要望 (もしあれば)

以下は採点用

宿題														
課題														
参加														
試験														

--	--

